**ハンドマイク街頭演説原稿例　　　　　９条改憲反対・憲法署名**

二〇二二年二月十日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

　みなさん、いま、自民・公明の与党だけでなく、維新の会や国民民主党までも加わり、憲法９条を変える動きが急速に強まっています。岸田首相はじめ、自民党幹部から改憲実現への積極的な発言が相次ぎ、自民党は全都道府県で改憲を推進する集会を開くことを確認しました。５か月後に迫ってきた７月の参議院選挙でも「憲法改正」が大きな争点となります。では、いま、なぜ「憲法改正」なのでしょうか。実は、２０１５年の安保法制の強行で、日本の存立を脅かす有事のさいに自衛隊が米軍とともに海外で軍事行動をすることが可能となりました。その後、自衛隊は米軍との海外派遣型の合同軍事演習、基地機能や装備の再編・強化を着実にすすめてきました。国民にその実態はあまり知らされていませんが、自衛隊はもはや専守防衛ではなく、海外派遣を主任務とする軍隊になりつつあるのです。全面戦争につながりかねない危険な「敵基地攻撃能力の保有」の論議も同様の流れからうまれています。しかしながら、海外で全面的に軍事行動するためには、まだ大きな障害があります。「戦争放棄」「武力行使の禁止」をうたう憲法９条です。９条の縛りによって、自衛隊はアメリカの戦争に全面的に参加したり、国連軍など武力行使を目的とした海外派遣はいまでもできないのです。ですから、自民党は改憲草案の第一に憲法９条に「自衛隊」を書き込むことで死文化させ、海外での武力行使を完全に自由化すること狙っているのです。災害救助にがんばっている自衛隊を憲法上もしっかりと認めようという単純なものではまったくありません。災害復旧などで汗を流している若い隊員たちがアメリカの戦争に派遣され、「殺し、殺される」事態が現実のものとなる。そのような事態は何としても阻止しなければなりません。日本共産党は、改憲の発議につながる憲法審査会の推進に断固反対していきます。私たちは、戦後の平和国家の礎となってきた憲法９条を何としても守り、次の世代に引き継ぎます。ただいま取り組んでいる９条改憲反対の全国署名にぜひご協力ください。よろしくお願いします。

「そうはいっても、中国の軍事的行動や北朝鮮のミサイルをどうするのか？」との声も伺います。当然の心配だと思います。日本共産党は、そのような安全保障上の脅威には、軍事力の強化など軍事的対応ではなく、「東アジアサミット」を平和の枠組みに発展させ、平和的な外交努力によって解決をめざします。その場合でも、自衛隊をいますぐになくそうとは考えていません。東アジアの平和の枠組みが発展し、将来的に国民の圧倒的な多数が「軍事力がなくても安心だ」と考えた時に、はじめて憲法９条の理想にむけてふみだそうと提案しています。万が一、「急迫不正」の侵略をうけたら、自衛隊もふくめ、あらゆる手段をもちいて国民の命を守ります。よろしくお願いします。

　最後になりますが、気候危機やジェンダー平等など多彩な記事満載の「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）